

水稲苗の生育状況と田植時の注意事項

1. 水稲苗の生育状況

4月が高温傾向で推移したため、葉齢の展開は平年より早く推移しております。今後も徒長やムレ苗等にならないようハウス内の温度管理には十分注意し、田植え作業を迎えてください。

2. イネミギワバエ(イネヒメハモグリバエ)

3月下旬～4月中旬の気温がやや高めで経過しており、その後、一時低温傾向が続いたものの、越冬世代成虫の発生は、平年よりやや早い5月上旬と予想されます。なお、育苗箱にパダン粒剤4を使用されている方等は、田植え後の経過を注視し、食害が見られた場合はトレボン粒剤を2～3kg/10a散布してください。

3. 田植時の注意事項

①品種毎の植付株数及び植付本数については、下の表を参考にしながら田植作業にあたってください。

品 種 名	植付株数(坪当り)	植付本数(株当り)
あきたこまち、たつこもち ちほみのり	60～70株	4～5本
ゆめおぼこ、萌えみのり きぬのはだ、ときめきもち	60株	3～5本
サキホコレ	70株	4～5本

②田植後、強風日が続く場合は、深水管理を心がける。

③もみ枯細菌病に感染している苗は、本田に植えずに苗の段階で処分する。

④苗立枯病に感染していても症状の軽い苗は早目に本田に植え付ける。

⑤補植苗を長く置いた圃場ほど葉いもち病の発生が早く、多い傾向にあるので、補植苗は補植が終了次第速やかに処分する。

4. 弁 当 肥

田植え1～2日前に1箱当りN成分量で2～3gを育苗箱に散布する。

硫安(細粒)の場合……現物量で1箱当り9～14g 1袋(20kg)で 1,400～2,200箱分
尿素(細粒)の場合……現物量で1箱当り4～7g 1袋(20kg)で 2,800～5,000箱分

また、「苗箱まかせ」のみを基肥で使用する場合は、「LPコート30」を1箱当り現物量で50g(1袋10kgで200箱分)を田植3～5日前頃に育苗箱上に施用すると初期生育量確保につながります。

5. 実生苗対策と初期除草剤(田植前処理)の使用

昨年と異なる品種を作付する場合は、実生苗の発生による異品種の混入が懸念されますのでエリジャン乳剤またはサインヨシフロアブルを散布し、実生発生予防に努めてください。

また、代かきから田植えまでの期間が長く、初期雑草の発生量の多い圃場については、つぎの初期除草剤を参考にしてください。

薬剤名	成分	使用時期	対象雑草	10a当り 使用量
メテオフロアブル	1	代かき後～田植7日前まで または 田植直後～ビエ1葉期まで	ヒエ、ホタルイ	500ml
サインヨシフロアブル				
テマカットフロアブル	2	代かき後～田植7日前まで または 田植直後～ビエ1葉期まで	コウキヤガラ クログワイ	
クリアホープフロアブル			ヒエ、ホタルイ 表層剥離	

6. イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・いもち病の予防対策(播種以降)

薬剤名	使用時期	1箱当り 散布量	1袋当り 箱数	包装 単位	病害虫
フェルテラ箱粒剤	播種時～移植当日	30g	33	1kg	害虫
ヨーバルトップ箱粒剤	播種時～移植当日		300	9kg	いもち病
パダンSG水溶剤(劇物)	田植時にペースト 肥料と混用	250g/10a		500g	害虫
ブイゲットフロアブル		400～500ml/10a		500ml	いもち病

◎ 育苗中にばか苗の発生が見られた場合は、圃場に持ち込まないようハウス内で抜き取りをお願いします。

◎ ハウス周辺等に除草剤を散布する際は、近隣ハウスへの飛散に十分注意してください。

※ 農薬の使用に当たっては使用方法を確認し、環境に配慮した施用量等を心がけてください。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稻以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。